

## (地域施策推進事業)

部名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費(円)	委託・負担金・直営	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業の効果及び住民の満足度	今後の課題及び取組方向
農林部	加賀 功	農業振興普及課	産地・技術普及班	長坂 和彦	0182-32-1805	種なしぶどう産地加速化事業	当地区は、県内一のぶどう産地であるが、キャンベル等の中粒種が約7割を占めている。しかし、消費者ニーズの変化により大粒種なしぶどうへの転換が必要となってきた。 このため、欧州ぶどうの上品な香りと甘さを備え、皮ごと食べられる品種で消費者ニーズが極めて高く、比較的栽培も容易であることから各産地で注目されている新品種「シャインマスカット」を軸に、種なし大粒ぶどうの普及を加速化し、横手ブランドを確立する。	2,349,538	直営	・新規栽培者向け説明会(7月15日、47名) ・実証モデル事業(新規栽培者の技術支援等、対象13カ所97a) ・先進地視察研修会(長野県、8月3～5日、39名) ・ぶどう先進地調査(山形県、7月12～13日、3名) ・シャインマスカット試食検討会(10月4日、37名) ・シャインマスカット生産販売実績検討会(1月6日、49名)	平鹿地域振興局農林部	果樹生産者(新たに栽培に取り組む者を含む)	平成23年4月1日	シャインマスカットの新規栽培者13名をモデル事例として、産地化を進めるための基礎を築くことができた。 また、シャインマスカット等の中粒種なしぶどうは消費者ニーズが極めて高く、生産量を増加させることで、地域住民の嗜好にマッチしたぶどうの安定供給が期待できる。	キャンベル等の中粒種からシャインマスカット等大粒種なしぶどうへの転換を進める。現在約15%の大粒種なしぶどうのシェアを、当面約20%まで拡大を目指したい。 特に、今後の主力品種となるシャインマスカットの栽培指導については、引き続き重点的に取り組み、高品質な果実生産を図っていく。 また、白色品種のみでなく、黒色系や赤色系品種についても、販売戦略上必要なことから、平鹿地域での栽培に適した品種について、検討していく必要がある。
						平成23年4月～平成24年3月	平成24年10月31日								
農林部	加賀 功	農業振興普及課	企画班	佐藤 猛	0182-32-9501	機能合体推進事業	平成23年度の機能合体で振興局、横手市双方が共通して行っている業務(農業法人の設立・育成、食育・都市との交流、マーケティング)を市へ移管している。この移管業務を円滑に遂行するために必要な予算を交付する。	2,748,563	交付金	・法人の設立・育成 法人化のための冊子作成 90部 農業経営者研修会 2日間 ・マーケティング 首都圏の企業訪問 4カ所 各種商談会 4回 都内商店街イベント参加 4ヶ月間 ・直売所活動 直売所PRグッズ作成(18直売所に設置) ・グリーンツーリズム 東京都の小学校へPR活動 5名、都市との交流29名、市内農家、児童交流体験 農家22戸、地元3小学校児童33人	横手市	・法人の設立・育成 集落営農組織、農業者 ・マーケティング 首都圏で商談会及びフェアを開催したことで新たな販路が4カ所開拓された。 ・直売所活動 直売所にのぼりが設置されたことにより、利用者から直売所が開いていることが判り利便性が良くなったとの意見を頂いた。 ・グリーンツーリズム 棚田での農作業体験は、東京の児童に大変好評であった。市内の交流体験によりグリーンツーリズム取り組みへのきっかけ作りが出来た。	平成23年4月1日	・法人の設立・育成 4農業法人が設立された。研修会に参加した8経営体は、自らの農業経営分析に取り組んでいる。 ・マーケティング 首都圏で商談会及びフェアを開催したことで新たな販路が4カ所開拓された。 生産者グループ等の組織化が必要 商談会やフェアは一過性のイベントにしない継続的に実施していくことが必要 ・直売所活動 経営・サービス業の研修等による質の向上を図っていく 各直売所の特産品販売による差別化が必要 ・グリーンツーリズム 交流人口を増やすため、グリーンツーリズムに取り組む農家を増やす取組を行う。	
						平成23年4月～平成24年3月	平成24年10月31日								
総務企画部	菅沼 和也	地域企画課	産業振興・食の郷づくり推進班	山田 忠綱	0182-32-2116	輸送機・電子関連産業支援事業	輸送機関連産業等で要求される高い品質水準に対応した工程改善活動等の取組を支援するとともに、岩手県等と連携し、受注機会の拡大と新規参入のきっかけづくりを推進する。	1,708,525	直営+委託	・自動車部品メーカー視察視察先:7イソ東北トヨタ自動車東北 ・外部専門家による指導3回実施(指導企業5社) ・工業団地PR用パンフレット作成・配付	平鹿地域振興局他	企業	平成23年4月1日	・自動車部品メーカーから求められる品質・コストや最新の動向を把握することができた。 ・改善活動を通じ、少しずつではあるが、意識の高まりがみられ、生産性向上が図られている。	・自動車関連企業と取引拡大するため、岩手県と連携して自動車部品メーカーの調達勉強会等を開催する。 ・改善活動に対する取組支援を継続し、管内企業の体質強化を図る。
						平成23年4月～平成24年3月	平成24年10月31日								

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施 主体	事 業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
総務企画部	菅沼 和也	地域企画課	産業振興・ 食の郷づくり 推進班	山田 忠綱	0182-32- 2116	ものづくり産業支 援事業	高校生を対象とした魅 力ある地元企業の説明会 や工場見学会、さらには 技能五輪メダリストによる 技能実演会を実施し、 ものづくり産業に対する 確かな職業観の醸成を図 る。	517,775	直営	・地元企業説明会 3校実施(説明企業5社) ・工場見学会 5校実施(見学企業18社) ・技能実演会 横手清陵学院参加	平鹿地域 振興局 他	高校生等	平成23年4月1日	工場見学会等を通じ、高校生 が県南地域におけるものづくり 産業(地元企業)への理解を深 めることができた。	引き続き、高校生を対象に、 県南地域におけるものづくり産 業への理解を深める機会を提供 していく。
						平成23年4月 ～ 平成24年3月							平成24年10月31日		
総務企画部	菅沼 和也	地域企画課	産業振興・ 食の郷づくり 推進班	佐々木尚之	0182-32- 2117	食品産業支援事業	・多様で豊富な農産物資 源等を活用した新商品開 発や販路拡大に向けた取 組を促進する。 ・県産品の情報発信機 会の拡大と多様な販売チャ ネルの確保を図るととも に、売れる商品づくりに 向けた気運の醸成と販路 拡大の機会提供を行う。	2,509,583	直営	・県南地域食農観連携ネット ワーク会議 年2回 ・物産展の開催仙台2回、東京6 回、岩手3回、県内4回 ・商談会の開催及び出展 横手 市内1回、東京1回	平鹿地域 振興局総 務企画部	行政関係 者、食 品・農 業・観光 事業者	平成23年4月1日	・県南地域食農観ネットワー ク会議では、商品開発をテーマ にした講演や新商品の試食会を開 催し、商品開発や商品のブラッ シュアップの機運醸成が図られ た。 ・首都圏 等で開催した物産展では食・ 農・観事業者の連携参加による 相乗効果で、地域と特産品の知 名度向上に効果的な企画として 実施できた。	・県南地域の連携で開催した商 談会では、数件ではあるが商談 成立した商品も出ている。ただ し、マッチングのうえでは双方 の目的が合致しないと商談の場 につくところまでいかない。多 種多様な事業者が参加する商談 会とするためには、パイヤーも 相当数参加するよう配慮し、 マッチングの確率を上げることが が、成功の鍵となる。 ・岩手・秋田県際交流事業は民間 主体での事業実施の体制が 整ってきている。県では引き続 きサポートをしていく。
						平成23年4月 ～ 平成24年3月							平成24年10月31日		
総務企画部	菅沼 和也	地域企画課	産業振興・ 食の郷づくり 推進班	北嶋 幸生	0182-32- 2115	横手地区雇用対策 推進事業	管内の雇用失業情勢は 厳しい状況にあり、求職 者の就職及び企業の人材 確保を支援する。また、 求職者の生活を支援する ため、相談会を併せて開 催する。	210,000	直営	・就職面接会の実施 第1回：平成23年8月4日、参加 者：72名、企業：22社 第2回：平成24年1月26日、参 加者51名、企業22社	横手市雇 用創出協 議会、ハ ローワー ク横手、 平鹿地域 振興局	地域住民	平成23年4月1日	就職面接会での採用決定者 第1回：6名、第2回：3名	管内の雇用情勢は依然として 厳しい状況にあり、今後も雇用 対策を講じていく必要がある が、参加者が年々減少している なか、企業では採用に慎重と なっており、いかに採用に結び つけるかが課題である。
						平成23年4月 ～ 平成24年3月							平成24年10月31日		
総務企画部	菅沼 和也	地域企画課 (横手市観 光物産課)	産業振興・ 食の郷づくり 推進班 (観光企 画)	讃岐 祐樹	0182-32- 2118	観光振興事業	平成23年度の機能合体 で振興局、横手市双方が 共通して行っている観光バ ス業務を市へ移管してい る。この移管業務を円滑 に遂行するために必要な 予算を交付する。 (横手の観光を通年でも 楽しめるものにするた め、その資源の発掘や磨 き上げ、ルートづくりを して旅行商品化につなげ る。)	1,279,000	交付金	通年型観光資源として有力視 されている増田のまちなみと近 隣市町の資源を周遊する観光バ スを運行させ、そのPRなどを 実施。バス運行期間：H23年10 月～12月。旅行雑誌への広告掲 載。10月22日羽田空港空の日で のPRなど。	横手市	県内外観 光客及び 旅行・マ スコミ各 社	平成23年4月1日	秋田DCなどをにらみ、県南 を周遊するバスルートの試行で あったが、乗車数や、利用者ア ンケートの結果をみても上々の 反応であったため、関係者は一 定の手ごたえを感じている。	周遊バスのアンケート結果を 参考にルート等の微修正を行う 一方で、効果的なPR方法を検 討する。また、バス事業者の主 体的な取り組みを促す。
						平成23年4月 ～ 平成24年3月							平成24年10月31日		
総務企画部	菅沼 和也	地域企画課	企画・県民 生活班	新田 清季	0182-32- 0594	元気な地域づくり 活動支援事業	より良い地域社会を創 るためには、市民と行政 の協働が必要不可欠であ ることから、市民(NP O等)と行政が情報を共 有するための「しゃべる ヴェ」を開催し、学習会 やワークショップを行い ながら地域課題の発掘を 行い、その解決に向けた 多様な主体における協働 の展開を図る。	30,000	直営	地域住民と行政の交流の場 「しゃべるヴェ」開催 ・日時 毎月第3水曜日 1 3:30～ ・場所 南部男女共同参画セン ター ・参加人員 延べ161人	しゃべる ヴェ世話 人会(平 鹿地域振 興局総務 企画部、 横手市及 びNPO 等で構 成)	市民活動 に興味の ある一般 県民	平成23年4月1日	毎回、市民生活上の具体的な 課題を取り上げ民間と行政がそ れぞれ違った角度から意見を出 し合い、互いに「できること」 「できないこと」を知ることは 大きな意義があり、住民だけ でなく、行政側にも貴重な機会 だったと考えられる。	振興局事業としてはH23で 終了した。H24からは民間主 催で実施する予定だったが、民 間の世話人が多忙等の理由のた めH24当初から実施していな い。(実施に向けての民間の動 きはある。)
						平成23年4月 ～ 平成24年3月							平成24年10月31日		